

特集

ものづくりとこころの 姉妹都市交流

世界で力を試したい、新しいことに挑戦したいと思ったとき、温かく迎え応援してくれる町。ドイツ・ローテンブルク市。

23年に姉妹都市盟約を締結したことを機に、これまで以上に交流が深まることを期待されています。

内子手しごとの会は5月、ものづくりを通じた交流事業を行いました。同会の活動を参考に、今後の姉妹都市との交流の在り方を考えます。



第1章 「ものづくり」を通じて 交流の輪を広げる

ローテンブルク市と姉妹都市盟約を締結して、間もなく2年。同市との交流の輪を広げようと、ものづくりを通じて互いを知り、技術や経済で協力する「大人の交流」が始まりました。



ローテンブルク市との交流をもっと広げたい
内子手しごとの会会長 山本勝美さん（60）＝内子 19 第1＝

23年の姉妹都市盟約締結の記念行事として、ローテンブルク市で「内子手しごとの会」の展示会に参加し、人生が変わるような経験をしました。同市の姉妹都市は世界に3ヵ所ありますが、ものづくりを通じて文化の交流をしたのは内子町が初めてでした。日本とは違う感性や技術を知ることは、新しい発想を生みます。若い人にも同じ経験をしてほしいと今回の事業を企画しました。



7_盛大に行われた聖霊降誕祭のパレード 8_展示即売会の商品陳列 9_手すきと紙体験をした女の子と記念撮影 10_ライク社を訪問
11_ライク社での展示即売の様子 12_看板づくりの作業を見学 13_眼鏡を使ったコミュニケーションで市民もにっこり

1_市庁舎のバルコニーでハルトル市長らと記念撮影 2_市内は祭りの雰囲気であふれていました 3_笹飾りで遊ぶ地元の子どもたち
4_展示即売会の様子 5_展示会のことが地元紙に取り上げられました 6_旧消防署の外観、この1階で展示即売会を行いました

新しい交流の始まり

内子手しごとの会の会員など9人（以下、訪問団）は5月13～23日、姉妹都市のローテンブルク市を訪れ、和ろうそくや清酒など3829点の展示品を販売、ミニ紙すき体験などを行いました。同市の聖霊降誕祭もあり、多くの人でにぎわいました。

25年以上続くローテンブルク市との交流。同会は、姉妹都市盟約締結を機に、今以上に交流を深めたいと大人の交流事業を提案。ものづくりを通じて、互いの技術力向上と経済活動の発展を目指す、新しい交流が始まりました。

地元企業との交流

訪問団は、土産用の陶器などを生産しているライク社を訪問しました。工場で商品の制作工程を見学した他、お茶会を開くなど互いの技術や文化についての理解を深めました。ライク社長は、「日本の伝統工芸を通じて、ドイツ人が日本に対する興味を持ってくれた。作品をドイツ語で説明

できる人が多ければもっと良かった。今後も文化的な交流を深めたい」と話しました。

看板職人の工場も見学しました。美しいデザインの看板は観光客に人気があり、ミニチュアが土産として買われています。訪問団は、「ドイツ職人の技と感覚に刺激を受けた」と感想を述べました。

訪問団の帰国後、ライク社の店舗で引き続き展示品の販売がされ、また一つ、新しい交流が始まりました。

交流で広がる可能性

文化交流で大切なことは、まず自分たちの文化を知ること。その意味で今回の訪問は、自分たちの文化や仕事を見つめ直すことにつながっています。山本会長は、「ローテンブルク市との交流は、世界へ飛び出す一つのきっかけを与えてくれる。世界との文化交流を通じて自分を見つめ直すことは、将来の可能性を大きく広げること。交流は続くので、機会があれば参加して自分の可能性を広げてほしい」と話していました。

ローテンブルクの手しごと

4_ライク社の商品。ローテンブルクの建物を小さくした置物 5_景観と調和した看板デザイン 6_ワインの試飲会では、ドイツワインの歴史や作り方を勉強。7種類のワインを飲み比べました

展示即売会の商品（抜粋）

1_着物を再使用して作ったバック。エコロジーなドイツで大人気 2_和紙。色紙より素朴な紙が売れ、日本人との好みの違いが明らかに 3_木製のバック。市松模様の作り方に質問が集中しました



交流の絆を強める

ローテンブルク市と内子町は、心が温まる交流が続けています。今回もローテンブルク市の人たちのおもてなしの心に触れ、訪問団の全員が感激したそうです。
これからも交流を重ねる両市町。もっと互いを知るため、関係者の思いを率直な言葉で伝えます。

新しい交流は、ローテンブルク市で、どのように受け入れられたのでしょうか。訪問団の受け入れを担当したローテンブルク市観光局のヨハン・ケンプターさんに、今回の訪問について聞きました。

Q 近年の内子町とローテンブルク市との交流についてどう思いますか

A とてもうまくいっていると思います。特に姉妹都市盟約締結事業は大事な役割を果たしました。展示即売会もローテンブルク市民に内子を印象

付ける効果がありました。市民と観光客が日本の文化を知るようになりました。

Q 両市町の関係はどんな道を行くと思いますか

A ローテンブルク市からも芸術家や職人を派遣したり、ドイツの祭りを日本で紹介したりしたいですが、大変な費用が必要です。その予算は今のところありません。

互いの市町の職員派遣ができればいいですね。
Q ローテンブルク市民の温かい歓迎に訪問団が感激しています

A 皆さんにそう思ってもらって、本当にうれしいです。しかし、内子町民の方がすてきなおもてなしをしてくれていると思います。私たちの恩返しは全然足りません。

ローテンブルク市は観光地になって歴史が長いので、おもてなしやお客様への対応には長い伝統を持っています。観光客に対して温かい心で接していないと、観光客は二度と来てはくれません。友人である内子町民に対する「おもてなしの心」は、ごく自然なことです。



1_ ケンプターさん(中央) 2_ 来客を歓迎する儀式、マイスタートウルリンクを市長室で 3_ お茶会では着物で交流 4_ 姉妹都市盟約締結記念板

訪問団の声 [姉妹都市との心の交流]

ロ市との交流で世界の友人と再会

山口俊道さん(64) = 小田下 =



ローテンブルク市との交流が縁になり、ロシアとフランスの姉妹都市とも交流があります。今回もロシアの派遣団長と再会しました。姉妹都市同士の交流も深めたいですね。

シューバルト元市長夫と27年ぶりの再会

河内正剛さん(41) = 松尾 =



中学生の頃、私の家にホームステイした夫人と再会。私が作った商品や篠笛の演奏を披露して、喜ばれたのがうれしかったです。当時を思い出し、いろいろな話がありました。

身に余る待遇に感謝の気持ちでいっぱい

田丸律子さん(47) = 内子4 =



ハルトル市長をはじめ、関係者の皆さんの心遣いに感動しました。言葉が通じなくても、心は通じることを実感しています。彼らが内子町に来るときは、同じように歓迎したいです。

大人の交流は素晴らしい試み

ドレーン・アルントさん(37) = 内子19第1 =



大人が文化的な交流をすることで、互いの理解を深めることができるので、今回の試みは非常に良かったです。さまざまな分野で交流できることが、実現に近づいていると感じました。

姉妹都市関係は互いの文化に橋をかけること

市長からのメッセージ



ヴァルター・ハルトル
ローテンブルク市長

姉妹都市関係は国際理解にとっても重要です。フランス・アティスモン市とは第二次世界大戦後、2国間の不仲を解消し、乗り越えるために、互いに理解しようと姉妹都市になりました。これにより、フランスとドイツの友好が実現しました。

近年、姉妹都市関係の意義は、異文化に関心を持ち、理解し尊敬し合うことが中心となっています。特に青少年海外派遣は、若者たちに貴重な人生経験を伝えることができます。

ローテンブルク市には60カ国以上から来た人々が住んでいます。多文化共生に力を入れていますので、ドイツ政府に「国籍多様性の町」として表彰されました。姉妹都市関係にも力を入れています。それぞれの姉妹都市の市民は交流を通じて、互いを知り、尊重するようになります。たくさんの友情も生まれました。初めて内子を訪問し

たローテンブルク市民から、「日本の文化に感銘を受けた」、「内子町民のおもてなしの心に感動した」と聞いています。私と家族もそうでした。このような経験は姉妹都市関係の大切さを強調します。姉妹都市関係はそれぞれの文化に橋をかけていると思います。また専門的交流を通じてお互いからたくさん学ぶこともできます。

内子手しごとの会の展示即売会は、日本の伝統的な技術について印象深く表現していたと思います。上質な作品は来場者に大変評価されました。内子手しごとの会のメンバーは自分の故郷の内子と祖国日本の良い大使になったと思います。これからも両市町の姉妹都市関係や文化交流を続けて、さらに交流を深めることができることを願っています。

第3章 「姉妹都市交流」を通じて 世界の扉を開く

ローテンブルク市との交流は、世界とつながる大きな扉。
今回の訪問に参加した若者たちは、姉妹都市との交流で何を得たのでしょうか。

世界の扉が目の前に
ローテンブルク市との友好
関係を築いてきた内子町。一
層の理解と親交を深めるた
め、今後も交流を続けます。
毎年行っている青少年海外
派遣事業をはじめ、今回の大
人の交流事業は大きな成果を
収めました。林業関係では24
年10月、ローテンブルク市森
林局長のダニエル・グロスさ
んを講師に迎え、林業研修会
を開きました。10月には、ド
イツからの訪問団が来町しま
す。それに合わせ、姉妹都市
交流を記念したイベントを企
画中です。内子町には世界へ
とつながる大きな扉がたくさ
んあります。

町全体で姉妹都市交流を
姉妹都市を形式的なものに
しないため、交流の裾野を広
げることが課題です。一人で
も多くの人が、ローテンブル
ク市のことを知り、親しみを
持つことが大切になります。
今後も続く同市との交流。
あなたも世界への扉を開い
て、町民が一体となった温か
い姉妹都市交流を実現してみ
ませんか。



木工品販売担当
土居勇真さん(30)
＝内子19第2＝

ローテンブルク市を身近 に感じてほしい

私にとって一番の出来事は、私が制作し、町が友好の証として市長に送った木彫りが、市長室にあるのを見られたことです。内子町を特別に思ってくださっていることが分かり、ローテンブルク市を身近に感じました。

今回、世界の人たちと交流し、自分の視野の狭さを知りました。良いものを作るには、使う人の気持ちをもっと知ることが大切。この経験を生かして、26年の21世紀えひめの伝統工芸大賞で大賞を取りたいです。次にローテンブルク市の人と会うときに、自分の成長した姿が見せられるよう頑張ります。



市長室に飾られた木彫り(上から3段目)



和紙販売、手す
き和紙体験担当
成見優子さん(21)
＝柿原＝

海外での経験を創作活動 に生かしたい

初めての海外で、全てが新しいことばかり。実際に販売することで、分かることがたくさんあり、勉強になりました。筆ペンの人気には驚きました。

ローテンブルク市は想像以上にきれいな町。店舗はレトロな雰囲気です。看板のデザインや装飾が特に良かった。見聞を広めることで新しい発想が生まれると、あらためて思いました。創作意欲が湧いて、いい気分です。日本に帰ってきました。

ドイツ語を話せなかったのは残念。次の機会には、一つ一つの経験を無駄にしないよう、ドイツ語を学びたいと思います。



筆ペンで地元の子どもたちと交流



日本酒販売担当
岡田将太郎さん
(27)＝西沖＝

姉妹都市盟約の締結は 内子町の誇り

ドイツに留学していた経験があり、今回の交流事業に参加しました。日本酒を通じ、現地の人からさまざまな情報を集めることができたと思います。

心の通った交流をすると、特別なことが自然にできます。ローテンブルク市は本当の姉妹都市だと感じました。市長をはじめ、普通の旅ではない出会いがあり、心に残る旅となりました。

世界的に有名な市と姉妹都市になっていることを重く感じています。多くの人に、このすごさを知ってほしい。そして内子町がこれからも姉妹都市にふさわしい町であることを願います。



内子町との友好の証を見つけました